

「五島をつなぐ～支庁の窓～」 No. 71 大島町

大島支庁港湾課では、大島、利島、新島、式根島、神津島において、港湾・漁港・空港施設の整備や、管理業務を行っております。

今回は、大島初の外国籍クルーズ客船の寄港についてご紹介します。

6月19日午前8時前、ドイツ船籍のクルーズ客船「ハンセアティック・ネイチャー号」が、岡田港に寄港しました。着岸時には、「ようこそ伊豆大島」と書かれた横断幕や大島のゆるキャラで、乗客を出迎えました。

その後、下船した乗客は、三原山や椿花ガーデン等の島内観光や岡田港周辺の散策、船客待合所に特設された伊豆諸島・小笠原諸島の紹介ブースの見学等、思い思いに大島を楽しみました。出港前には、フラダンスや御神火太鼓が披露されました。クルーズ客船は、午後5時頃、大勢の町民と関係者に見送られながら、次の寄港地・横浜へ向け出港しました。

東京都では、伊豆諸島の観光業を振興するため、外国籍クルーズ客船の寄港誘致を進めてまいります。今後も、港湾空港事業へのご理解とご協力の程、よろしく願いいたします。



ハンセアティック・ネイチャー号



横断幕とゆるキャラがお出迎え



特設ブースで島酒の試飲・販売を実施



フラダンスの演出



御神火太鼓の演奏



客船は横浜へ向け出港

「五島をつなぐ～支庁の窓～」 No. 71 利島村

大島支庁港湾課では、大島、利島、新島、式根島、神津島において、港湾・漁港・空港施設の整備や、管理業務を行っております。

今回は、利島港における小型船だまりへの越波対策についてご紹介します。

平成 30 年 7 月に襲来した台風 12 号により、防波堤を越波した波で小型船だまりに係留していた船が複数転覆し、階段横の擁壁が倒壊しました。

この被災を受けて小型船だまりの越波対策について、これまでの対策（胸壁の嵩上げ）を踏まえ、消波堤の整備を基本とし、シミュレーションを行って効果を検証した上で、写真の位置に断面図のような構造の消波堤を今後、整備していく予定です。

東京都では、伊豆諸島の港の安全を守るため港湾施設の整備を進めてまいります。今後も、港湾空港事業へのご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

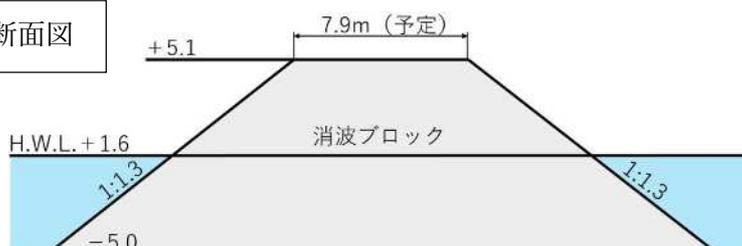
台風 12 号による越波状況



対策工位置写真



対策工断面図



「五島をつなぐ ～支庁の窓～」 No.71 新島村

大島支庁港湾課では、大島、利島、新島、式根島、神津島において、港湾・漁港・空港施設の整備や、管理業務を行っております。今回は、現在新島村内にて行っている港湾・漁港事業をご紹介します。

新島港防波堤改良事業

既設の防波堤の老朽化や対象とする設計波の見直しに対応するため、令和2年度より改良事業が始まりました。工事場所は通常の型枠では施工が困難であるため、陸上で製作したコンクリートブロックを型枠とする等工夫をして、安全かつ効率的に作業を進めております。防波堤の港内側で作業を行っておりますので、泊地内の航行時にはご注意ください。



若郷漁港落石防護施設復旧事業

令和3年7月に発生した記録的な大雨により、若郷漁港の法面（のりめん）が崩壊し、直下の落石防護網等が被災しました。現在は上部の法面防護工事を行っており、今後、下部の落石防護網の撤去・張り替え工事を行う予定です。急峻な法面でのロープ高所作業を行うため、十分に注意しながら作業を進めてまいります。

工事中はご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。



大島支庁港湾課では、大島、利島、新島、式根島、神津島において、港湾・漁港・空港施設の整備や、管理業務を行っております。

今回は、神津島村内で行っている工事の中から、神津島港防波堤の整備事業についてご紹介します。

神津島港は、神津島の南西部に位置し、大型定期船やジェットfoil等が接岸する岸壁の他に、港内には小型船施設が整備され、船溜まりとして利用されています。

現在、港内の静穏度を高めるため、既設岸壁の先端に防波堤（西）の整備を進めています。防波堤（西）は、ケーソンと呼ばれるコンクリート製の函でできています。ケーソンは、東京港で製作し、船で神津島港まで運び、現地に据え付けています。令和3年度までに、4函目（既設延長126.4m）までの整備が完了しており、今年度は5函目（総延長158.2m）を7月に据え付けました。引き続き関連工事を行い、今年度末の完成を目指します。

工事完了まで、港を利用される皆様にはご不便をおかけしますが、今後も港湾空港事業へのご理解、ご協力の程よろしく願いいたします。

